（中間Ｃ）

評価分科会総合評価

研究課題名：
　気候変動への適応策策定に資するための気候・環境変化予測に関する研究
評価分科会（気候・地球環境分野）
　　分科会長：田中正之
　　委　　員：蒲生俊敬、田中　佐、安成哲三、渡邊朝生
評価年月日：平成２４年１１月３０日（分科会開催）
　　平成２５月　２月１８日（評価確定）

１．総合評価
（１）継続の可否　　■　継続　　□　中止
（２）修正の必要の有無　　□　修正の必要あり　　■　修正の必要なし

２．総合所見
　地球温暖化に伴う将来の気候・環境変化に関する的確な予測情報を提供し、かつ効果的な適応策の策定・実施に資することは、社会的要請の極めて大きい課題である。気象研究所では早くからその為の気候予測モデルの開発改良に努めて成果を挙げてきており、本課題で取り組むエーロゾル、オゾン、炭素循環過程などを組み込んだ地球システムモデルの開発とその活用、及びデータの公開は、優れて社会的要請に沿った研究であると認められる。本研究は同時に、最新の科学的知見や計算機技術の開発・導入が必要な気象業務の高度化全般にとっても極めて重要な課題であることは言うまでもない。
　研究は当初の計画通りほぼ順調に進捗しており、中解像度地球システムモデルの開発とＣＭＩＰ５への対応が適切に行われている。また、高解像度モデルの開発に向けた課題とその対応策が明確にされ、最終目標である高解像度モデルによる近未来の気象現象の予測に向けて順調に開発が進んでいる。同時に、論文発表・学会発表等による情報発信も精力的に行われていることから、本研究のこれまでの成果は高く評価できる。計画前半の中解像度モデル実験に当初の想定よりも多くの時間を要し、計画後半の高解像度モデル実験に若干の遅れが見られることはやや懸念されるが、これによって中解像度モデルの完成度が一段と高まったことは、今後の研究の進捗に貢献するものと考えられる。
　研究を当初の計画通り進めることで、気象の極端現象の発生予測等の社会的に関心の高い課題について本研究から最先端の知見が提示されることが期待され、当初の目標が成功裏に達成されるものと期待される。なお、特にエアロゾル過程での不確定部分についての不確定範囲の設定により、気温、降水量など

が地域的にどの程度変化する可能性があるかなど、適応策を策定する側からの要求を考慮した評価が示されることが望ましいという要望、および、水産資源の長期的な動向予測の視点から、我が国周辺海域における黒潮、黒潮続流、親潮、対馬暖流等の海流系や海洋前線、中規模渦などの海洋現象の温暖化の進行に伴う変化についての予測精度の一層の向上を期待するという要望があったので、これらにも留意しつつ研究を進めて頂きたい。